自閉症のこだわり行動による生活困難性への支援のあり方
－福祉専門職と母親の支援内容についてのエピソード分析－

○　社会福祉法人睦月会　西東京市相談支援センターえぽっく　柳沢　ゆかり（8182）

キーワード：自閉症、こだわり行動、生活支援

１．研 究 目 的

自閉症のこだわり行動にはその人によって異なる行動が現われ、それぞれ個々の状況、状態を見極めて対応していくことが求められる。自閉症には、障害の側面と本人の発達側面のそれぞれの独自かつ関連させた評価が重要になる。医学的な視点だけではなく、障害の重複、困難性の重複の可能性を注意深く見ていく必要がある。よって、的確なアセスメントによる効果的な支援に結びつく困難の焦点を明らかにし、将来を見据えた継続した生活支援を行っていく必要がある。

しかし今までの研究では、こだわり行動の行動分析や自閉症児・者の行動の見直し、改善を求めていく研究、こだわり行動を減らしていくための支援研究というような、自閉症児・者自身のこだわり行動の問題点や行動変化を行う手段の検討など、“自閉症のこだわり行動”自体を問題と捉えた研究が多くなされている。こだわり行動への支援に関する研究もなされてはいるが、生活支援について福祉的な視点で具体的に述べている研究はほとんどない。そのため、自閉症のこだわり行動による生活の困難性に対する支援について考えていく必要があり、こだわり行動のどの部分が生活に困難さを及ぼしているのかを明らかにしていくことが重要となる。その生活困難性に対して、どのような意識で支援に取り組んでいくべきなのか追究していかなければいけない。

本研究では、自閉症のこだわり行動への福祉専門職及び母親の支援行動に着目し、その支援行動が利用者の生活及び生活行動にどのように影響を与えているのかを、エピソード分析によって明らかにすることを目的とした。

２．研究の視点および方法

「こだわり行動」、「支援（介入）内容」、「支援の結果」「支援後の自閉症児・者の生活への影響」について直接面接法により調査を実施した。また、得られた結果から自閉症児・者に必要な支援を検討し、自閉症児・者のこだわり行動の支援内容について考察を行ったうえで課題を明らかにした。対象者は、A 県および B 県において、調査協力の承諾を得た自閉症児・者の生活支援にあたっている福祉専門職者 2 名、家族 2 名にインタビュー調査を行った。

まずパイロットスタディを実施し、質問の問題点、改善点を整理した後、本調査を実施している。半構造化を用いて、作成した質問用紙を使用しインタビューを行ったものを、

客観的視点によるコード化にし、エピソード分析を行った。

３．倫理的配慮

研究倫理指針に従い､調査対象者への事前説明を行い聞き取り調査の承諾を得た｡また、対象地域を特定できないように標記した。個人情報の取り扱いに十分に配慮し、個人が特定できる事項は一切省いている。

４．研 究 結 果

調査結果から、こだわり行動の支援における課題①「“こだわり行動”それに対して“支援する”」という繰り返しによる対処的支援の傾向、②支援における強制的な介入と利用者の本位の捉え方、③こだわり行動による自傷行為の分析。この３つの視点を抽出することができた。

また、家族と専門職の支援の違いについて明らかになった。

家族は、どのように自分の子どもと関わりをもてばいいのか、どのように育てていけばいいのか悩んでいる時に出会う専門家によるアドバイスが、家族に大きく影響していることが見受けられる。専門家の言葉がけや支援は母親自身の支援に自信をもたらしてくれる存在であり、子どもの生活の基礎となる考え方となっていくとても重要な出会いである。しかし、そこで受けた助言に意識が傾き、長期的な視点が欠けている部分が出てきているようにも考えられる。

母親の支援が子どものこだわり行動や生活に大きな影響力を与え、自分が何とかしなければいけないという焦り、結果を急いでいる様子がうかがえる。自閉症児・者の生活の中で､“自傷行為が出ないことだけ”を気をつけなければいけないという考えにより、そのために自閉症児・者ができる行動、生活に活かせる行動を見落としてしまっているのではないかと考えられる。日々繰り返される生活の困難性に対して、親は否定し、長期的視点が持てなくなる。それは家族による障害受容や将来の展望、愛情過多が大きく影響してくると考えられる。

施設専門職者は、専門の違いによって認識や生活の価値観が違うため各々の課題が見えている。自閉症児・者に直接支援にあたる施設の専門職員は、自閉症のこだわりから出てくる困難性を理解しているか、していないかの差が支援に表れている。

専門職者は経験、技術、知識に違いがあるため、支援者同士で統一した考えを持つ必要がある。その支援のゆがみに振り回されて混乱するのは自閉症児・者であり、誰のために支援を行っているのかを、専門職員は忘れてはいけない。

それから、職業的支援になればもちろん、第３者にしかできないソーシャルワーク的な視点が求められる。ソーシャルワークの視点で考えていく支援、エンパワメント力、合理的な配慮による支援、自立の視点、ICF の考えなどを理解していく必要がある。